

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2472500244
法人名	社会福祉法人 むつみ福祉会
事業所名	グループホーム むつみ園
所在地 (電話番号)	松阪市嬉野須賀領町477-8 (電話) 0598-48-0800
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 19 年 8 月 30 日(木)

【情報提供票より】 (H19年8月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤 11人, 非常勤 10人, 常勤換算	18.6人

(2) 建物概要

建物構造	(第1ユニット むつみ園) 鉄骨平屋建 造り ・(第2ユニット あゆみ園) 木造 造り 1 階建ての 階 ~ 1 階部分
------	---

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	6,000 円	
敷 金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 1,300円			

(4) 利用者の概要(8 月 15 日現在)

利用者人数	18 名	男性	9 名	女性	9 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名		
要介護3	6 名	要介護4	4 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 83 歳	最低	74 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	太田クリニック 井上内科病院 林歯科 大門病院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは田園風景の広がる小さな集落の中にあり、近年は新しい家も周りに建てられてきて地域の人たちとも挨拶を交わす機会に恵まれている。ふるさと会館や図書館などの公共施設やスーパーも近くにあり、こうしたところへの外出は利用者の楽しみにもなっている。渡り廊下でつながった2棟の建物の間にある畑はよく手入れされ、季節の野菜の育ち具合がそれぞれの建物からみることができる。このように環境面では整いつつあるが、開設から5年経ったこともあり、もう一度初心に立ち返りホームのあり方を探っていくと、現在重点的な目標をあげて取り組んでいるところである。法人は隣接して通所介護や訪問介護サービス事業所を運営しており、今後もサービスの幅を広げることでより総合的な支援をしていきたいと模索中である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価の改善課題であった介護計画書の利用者・家族等の同意、玄関鍵の開錠、職員・利用者一緒に食事、金銭の利用者自己管理に関しては改善されている。入浴日の設定に関しては、現在も変わりはないものの、希望や状況に応じた柔軟な対応が可能になっている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価は各職種で分担し、ケアマネージャーは介護職員の意見も聞きながら行っている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 今春より運営推進会議運営要領を作成し、利用者の家族・地域住民代表・市職員等がメンバーとなり2ヶ月毎の会議が開かれている。内容は地域住民からのホーム内での生活状況の質問や家族からの要望・ホームの対応への質問等で、市の職員や自治会長からも回答や意見が出されている。指摘を受けたホーム職員のマナーに関しては、後日ホームの運営会議で協議し、現在「あいさつ運動」に取り組んでいるところである。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族からの苦情や意見は記録に残し、必要があれば運営会議やケア会議で話し合っている。運営推進会議への参加の意向も全家族に問い合わせ、希望のあった家族に委員になってもらっている。ホーム側は、気楽に意見や苦情を出してもらうためには日頃のコミュニケーションが大切だと考え、現在の重点目標にしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームの通信を自治会に配り、介護教室や行事への誘いかけをしたりしている。文化祭には利用者の作品を出品し、見に行くなどしているが、自治会長からはよりホームと関わりを深めたいとの意向も示されている。日常的には近所から野菜などのおすそ分けがあったり、小さな子どもが遊びにきたりすることもある。

2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭や地域との結びつきの重視」を基本に、「誠意と愛情」「医療連携」「介護計画に沿ったケア」を具体的な理念としてつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	頻繁に行き来のある廊下やキッチンへの入り口などに理念が掲示されており、職員は日々意識している。また、理念の実践の具体的な目標を話し合い、現在は「明るいあいさつをしよう」に全員で取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	「むつみ通信」を自治会に配布して、ホームの行事や介護教室への参加を呼びかけたり、自治会の文化祭に作品を出品したりしている。近隣の人たちからは野菜などのおすそ分けをしてもらったりすることもある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	去年の外部評価の結果は運営会議などで話し合い、鍵をかけないケア・金銭の利用者自己管理・職員が一緒に食事を楽しむなどに取り組んでいる。今回の自己評価は運営者・管理者・介護計画作成者等が分担し、現場の職員の意見も聞きながら作成している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度より取り組んではきているが、19年5月に「運営推進会議運営要領」を作成し、より密度の濃い会議をめざしている。市職員・自治会長・地区住民・利用者家族・職員の構成で、家族には全家族に参加・不参加を確認している。会議は2ヶ月毎に開催されており、家族などからも忌憚のない意見が出されている。「あいさつ運動」も推進会議での意見を検討して実践に取り組んだものである。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市や包括支援センターにはホームの通信を持って行ったりして情報を交換し合っている。今のところ権利擁護制度を活用する機会はないが、必要な場合は市との連携を密にして取り組んでいきたいと考えている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	特変のあったときや面会時はもちろん、毎月1回それぞれの家族に向けて利用者のようすを記したものを送っている。預かり金の収支については事務所より請求等の際報告し、家族の確認を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情等外部にも表せることは重要事項にも明記し説明もしている。玄関には「お気づきBOX」が置かれ自由に投稿できるようになっているが、なるべく面会時等に家族の意見や要望を聞き取るようにしている。要望等は記録に残し、必要があれば会議で検討したりして対応している。また、運営推進会議への参加要請も家族に行い希望者に参加してもらっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が辞める場合は、利用者の困惑や・動揺を最小限に抑えるよう、情報の申し送りを徹底的に行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は経験・職種別研修、外部・内部研修、勤務に位置づけた研修、勤務外の研修などの年間計画が作成されている。勤務外の研修には旅費のみ補助をし、また資格取得のための研修も支援していきたいと運営者は考えている。職員は外部研修には勤務のシフト上で出席が困難なこともあるが、内部研修には手軽に参加できると大きな期待を寄せている。	○	研修計画予定が作成されており、運営者の具体的な支援の姿勢もみられ、現場の職員の期待も大きい。ケアの質の向上はもちろん、職員の意欲に応えるためにも確実な実施を期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者等は行政の説明会などに参加した折、同業者との情報交換等行っているが、現場職員は地域の同業者との交流や意見交換等の機会はほとんどない。	○	管理者はホーム間の交流の意義等を十分理解しておられることから、まずは近隣のホームや介護施設等に見学や行事への参加の呼びかけなど出来そうなことから始めていただくことを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用の前には見学や、レクリエーション体験などしてもらい、利用者や家族が納得して開始できるように配慮している。また、部屋に空きがあれば宿泊体験も可能である。開始後は、担当職員が初期の段階から重点的に関わりをもって対応し、徐々に馴染めるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者に対して、介護をさせてもらっているという気持ち以上に家族の一員というような気持ちが強く、ホームに出かけてくるのが楽しみで、支えられているのは自分たちのほうだと感じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から希望や意向を聞き取ったりしている。認知症状の重い利用者の要望も軽く受け取らず、できるだけ実現できるよう対応している。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の状態の的確な把握のために職員を担当制にしている。担当職員がケアマネージャーと一緒にケアプランの作成にも関わり、ケア会議で検討された介護計画案を家族に説明し、同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月1回開かれるケア会議では介護計画の見直しについても検討し、家族等とも話し合った上で、必要があれば計画の変更をしている。会議は夜開かれ、夜勤者を除いてほぼ全員が参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	希望により、通院や買い物・図書館への同行などを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの医療機関は利用者・家族の意思を尊重している。協力を委託している複数の医療機関もあり、必要に応じてホームより受診の支援をしている。その際はケアマネジャーが受診に同行し、医師との連携に努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在差し迫って対象となる利用者がおらず、また話題にしづらい面もあり、十分聞き取れているわけではない。今後はケアプラン作成の段階で利用者・家族等から聞き取っていききたいと、ケアマネジャーは考えている。管理者はホームの性質上、希望があればホームでの看取りにも対応していく必要があると考えている。	○	重度化や終末期への対応は、避けて通れない問題であるので、早急に利用者・家族等の意向を把握し、ホームが出来ること・出来ないことを利用者・家族等だけでなく職員や医療関係者等の間でも共有することが望まれる。今後は看護師を配置するなどしてホームでの重度化への対応や看取りの実現に積極的に取り組まれることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の日頃の様子の写真がホーム内に掲示されてはいるが、外部に配布する通信には写真や名前を載せることはない。出入りの業者等からは守秘義務遂行の誓約をとりつけ、利用者のプライバシー保護に努めている。当日は便の失敗のあった利用者に対して職員が周りのひとたちに気づかれないうささりげなく浴室に誘導し、手当てを行っていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとして、また利用者一人ひとりの一日の大まかな流れはあるが、出来る限り利用者の状態や希望に添ってすごしてもらっている。食後自室でタバコを吸う利用者のそばに座り会話しながら見守りをしている職員の姿がみられた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は各ユニットで毎日冷蔵庫の食材をみて、利用者の希望を聞きながら決めている。えんどうのすじむきなど簡単な下準備や配膳・下膳などできることは利用者にもしてもらっている。ホームの畑でとれた野菜が献立に上がることもあり、当日はきゅうりが浅漬けにして盛り付けられていた。また職員も一緒に食事をしながら会話やさりげない介助がなされていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は原則として月・水・金曜日になっているが、利用者の希望や状態、職員の判断で他の曜日にも柔軟に対応することになっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のしたいこと・得意なこと・できること等を把握し、畑仕事や洗濯物たたみ・カラオケ・図書の借り出しなどの支援をしている。普段は体を動かすことに消極的な利用者が、レクリエーションでは思いがけない意欲を発揮されることもあるので、なるべく多くの活動にふれる機会を提供し、潜在能力の引き出しに努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日はホームの周辺を2～3人ずつに分かれ、30分程度散歩している。遠方への外出はレクリエーションとして組み込んでいるが、近くの図書館や商店などへは利用者の希望があれば出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	前回の外部評価で改善点として指摘のあった表玄関の鍵はかけておらず、職員の見守りを徹底している。利用者が外に出て行く様子が見られた場合は声かけなどして気持の転換を図ったり、一緒に付き添って出るなどしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署との防災協定が交わされ、防災訓練や設備のチェックが定期的に行われている。非常用の水や食品の備蓄もあり、ホーム内の火の元等のチェックは職員が毎日チェック項目に従って行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は決まった時間以外にも随時飲めるようになっていく。食事のメニューや摂取量は毎回記録に残し、外部より栄養士を招いてアドバイスを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日光や風をさえぎる建物が周りにはなく、室内のどこからでも外の景色を楽しむことができる。廊下は特に広々しているわけではないが、行き来の妨げになるものもなく、すっきりした印象を受ける。壁面には職員が描いた利用者の似顔絵や写真等が飾られているが、幼稚な飾り付けではなく、普通のおうちといった落ち着きを感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	クローゼットは作り付けてあり、ベッドもホーム側が用意したものが入っているが、それ以外のものはテーブルとイスなど利用者側で個々に整えたものが置かれている。		